



社会福祉貢献者表彰式

社会福祉貢献者表彰式

長年にわたり地域福祉活動などを実践されてきた方を表彰する『社会福祉貢献者表彰式』（主催 栗山町社会福祉協議会：橘一也会長）が11月10日、カルチャープラザ「Eki」で開催されました。橘会長から2人の方に表彰状を、また、同協議会へ高額寄付をされた4人と1団体へ感謝状が授与されました。

【社会福祉功労表彰】

藤原 東峰さん（桜丘2丁目）
吉田ハルエさん（中里）

【感謝状】

※平成24年10月1日～平成25年9月30日までの1年間に高額寄附をいただいた方が対象

- ・長尾 康博さん（富士）・則武 和晴さん（角田）
- ・井澤 雅子さん（南学田）・谷口 温松さん（富士）
- ・栗山高等学校生徒会

火災予防絵画コンクール

小学1年生から3年生を対象にした火災予防絵画コンクールで、今年度は近隣4町の小学校8校から計44点の応募がありました。町内からは13点の応募のうち、3人の作品が優秀賞に選ばれ、各小学校の校長室で表彰伝達式が行われました。



しまのこころ
高野優心（栗山小1年）さん



すだとしかり
周田俊誠（角田小1年）さん



むろかなと
室 叶夢（継立小2年）さん



交通功労者・優良運転者等表彰式

交通功労者・優良運転者等表彰式

栗山地区交通安全協会主催の「交通功労者・優良運転者等表彰式」が10月25日、カルチャープラザEkiで行われました。栗山町からは功労者として5人、優良運転者として3人が表彰を受けました。

【交通功労者表彰】

永田 英隆さん（角田）
金谷 雅人さん（松風3）
山崎 信治さん（松風3）
岡山 彰さん（角田）
原 佳奈子さん（松風2）

【優良運転者表彰】

菅原 愛子さん（30年以上）
岩渕 純子さん（30年以上）
川合 和彦さん（20年以上）

平成25年度 町政功労者表彰式

長きにわたり、町政の発展に尽くされた方の功績をたたえる「平成25年度町政功労者表彰式」が11月1日ホテルパラダイスヒルズで行われ、各分野で活躍された6人に椿原紀昭町長から表彰状が手渡されました。



栗山町政功労者表彰式



【福祉功労者】

川田澄子さん（継立）

保護司として20年余の長きにわたり社会奉仕の精神をもって青少年の健全育成に尽力され、犯罪の無い明るい社会づくりに貢献され、平成9年からは、栗山地区保護司会理事として、保護司活動の充実強化の推進にも寄与されています。



【産業功労者】

稲市男さん（錦3）

栗山消費者協会会長として12年余の長きにわたり、消費者教育や人材育成に尽力され、消費者保護活動に貢献されています。また、本年、北海道社会貢献賞を受賞されました。



【自治功労者】

椋澤忠彦さん（朝日3）

朝日町内会長として15年余の長きにわたり、会員の親睦融和に尽力され、町内会行事などを率先して推進し、地域の発展に貢献。平成20年からは、栗山町内連合会長として組織の円滑な運営や町の振興発展に寄与されています。



【教育功労者】

渡邊光章さん（松風3）

スポーツ推進委員として、22年の長きにわたり、地域スポーツの普及推進に尽力され、この間、卓越した知識と豊富な経験を基に、本町の社会教育振興に貢献されました。



【治安功労者】

石田武さん（松風3）

交通安全指導員として28年余の長きにわたり、街頭指導などにあたられ交通安全の啓発に尽力され、交通事故防止に貢献されています。



【治安功労者】

鈴木英雄さん（大井分）

消防団員として32年余の長きにわたり、地域の予消防活動に尽力され、栗山消防団第三分団長として住民生活の安全確保と防災に貢献。また、交通安全指導員として28年余の長きにわたり、交通安全の啓発に尽力されています。

知っておきたい まちの予算

栗山町の予算と財政状況

平成24年度決算の概要②

健全化判断比率から見る まちの財政状況は？

今月号では、平成24年度の決算に基づき算出された「健全化判断比率」と「資金不足比率」の指標から見るまちの財政状況をお伝えします。

※健全化判断比率の概要は、下記の表①をご覧ください

◆平成24年度の算定結果は？

平成24年度決算における財政状況を健全化判断比率で見ると、左記の表②のとおりとなりますが、各比率の算定結果が示すとおり、「健全基準」にあります。

本町では、平成20年度をピークに借金返済額が減少していることから、実質公債費

比率、将来負担比率ともに前年度より比率は改善しています。

しかしながら、本町の比率は、依然として全道の平均を上回っており、また、景気低迷による税収の減や、地方交付税の伸びが期待できないなど、厳しい財政状況が続いています。

今後も行財政改革の指針である「がんばる栗山プラン21」の推進により、計画的かつ健全な財政運営に努めていかなければなりません。



用語の解説

■普通会計
地方公共団体の財政状況を統一基準で比較するための会計区分です。
本町の場合は一般会計と北海道介護福祉学校特別会計を合算したものです。

■標準財政規模
町税や地方交付税など使途の特定されていない一般財源の額の大きさを全国統一の基準により算出した額です。
本町の平成24年度標準財政規模は、48億5952万円です。

【問い合わせ】
町経営企画課
行政経営グループ
☎73 7503

表①

健全化判断比率と資金不足比率

地方公共団体の財政破たんを未然に防ぐために設けられた指標で、町の会計のほか、土地開発公社や町が加入している一部事務組合などを含めた、まち全体の財政状況を明確にしたものです。

健全化判断比率として「実質赤字比率」、「連結実質赤字比率」、「実質公債費比率」、「将来負担比率」の4項目の指標と、公営企業の財政状況を把握する「資金不足比率」の公表が義務付けられています。

それぞれの指標から財政の健全度を「①健全基準」、「②早期（経営）健全化基準」、「③財政再生基準」の3段階で表します。

①健全基準

②早期健全化基準、経営健全化基準

財政状況が悪化し、「早期（経営）健全化基準」に区分された場合は、財政（経営）健全化計画を策定し、自主的な努力により、財政（経営）再建を図ることになります。

③財政再生基準

早期健全化基準よりもさらに状況が悪化し、自主的な立て直しができないと判断される「財政再生基準」に区分された場合は、財政再生計画を策定し、国や道の関与のもと財政再建を図ることになります。町が単独で行っている施策や公共事業の削減など、行財政運営全ての面で厳しい制限が加えられることになります。

表② 健全化判断比率と資金不足比率の算定結果 ●栗山町の数値 ●全道平均の数値

項 目	平成24年度の比率は？
実質赤字比率 普通会計における赤字額が、標準財政規模に対して、どのくらいの割合であるかを示す指標です。年間の赤字額の割合が大きいほど、財政運営が深刻化していることを表します。	
連結実質赤字比率 特別会計を含む全会計における赤字額が、標準財政規模に対して、どのくらいの割合であるかを示す指標です。年間の赤字額の割合が大きいほど、財政運営が深刻化していることを表します。	
実質公債比率 実質的な借金返済額が、標準財政規模に対して、どのくらいの割合であるかを示す指標です。借金の返済額の割合が大きいほど、資金繰りが悪化していることを表します。本町では、その年の借金返済額が年収の18.9%を占めていることを示しています。	※早期健全化基準以上の道内市町村：1団体
将来負担比率 今後負担する実質的な負債額が、標準財政規模に対して、どのくらいの割合であるかを示す指標です。将来の負担が見込まれる負債の割合が大きいほど、将来、財政を圧迫する可能性が高いことを表します。本町では、今後返済しなければならない借金総額が、その年の年収の0.9倍あることを示しています。	※早期健全化基準以上の道内市町村：1団体
資金不足比率 各公営企業会計（水道事業、下水道事業）における資金不足額が、料金収入などの事業規模に対して、どのくらいの割合であるかを示す指標です。 数値が大きいほど、経営が深刻化していることを表します。	

◆ 今後検討すべき主な政策課題

人口減少時代への対策を

「若者の移住・定住対策」
子育て世代の減少を抑制（子育て・教育環境の充実、企業誘致、宅地・住宅支援、新規就農支援など）

「空き家・空き地対策」
危険な老朽家屋、景観をそこなう空き地の対策

「地域コミュニティの体制づくり」
町内会・まちづくり協議会などの支援

「都市農村交流の推進」
町外からの交流人口拡大と経済効果創出（自然・農業体験事業の推進、合宿誘致、農産物の魅力発信など）

「公共施設の効率的・効果的な活用」など

高齢社会への対策を

「健康づくりの推進」
各種健（検）診の受診率向上など

「在宅福祉・在宅医療の推進」
高齢者の地域での生活を支える

「介護者（ケアラー）支援の充実」
老々介護といわれる状況への対応

「生きがい創出」
元気な高齢者の社会活動の場づくり

「効果的な町営バスの運営」
生活の足の確保

「地域防災の体制づくり」
高齢者単独世帯の増加に対応

「悪質化する犯罪対策」
高齢者に対する振り込め詐欺、還付金詐欺への対策 など

その他の主な対策課題

「新たな情報伝達手段の構築」
防災無線・ラジオなどの導入検討

「空き店舗対策の充実」
中心市街の活性化

「広域サービスの構築」
近隣市町村との連携

「コンパクトなまちづくり」
人口減少に対応した住環境・都市基盤づくり など



どうする？ 10年後の栗山町 栗山町第6次総合計画 策定中です。

平成27～34年度（8年間）の町の最上位計画



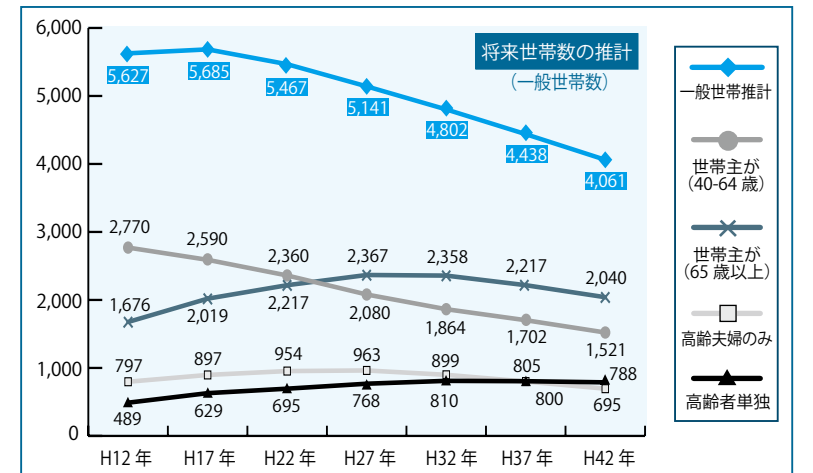
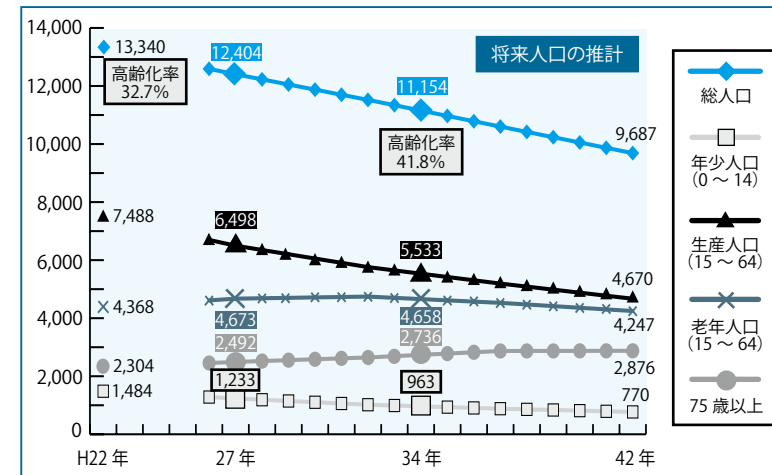
総合計画とは？

総合計画とは、まちの目指すべき将来像を定め、福祉・教育・産業振興・住環境づくりなど、その期間中に町が進める全ての政策の根拠となる重要な計画です。町による毎年度の事業立案や予算の編成は、総合計画に基づき行われます。町では、現行の第5次総合計画が平成26年度で終了することから、今年度から新たな計画づくりに着手しています。次期計画は、平成27年度～34年度までの8年間の計画となります。

将来人口・世帯の推計

現在町では、町民のみなさんの声をお聞きする活動のほか、政策決定の大切な要因である町の将来人口・世帯数の推計を行っています。

左のグラフは将来人口の推計で、次期計画期間である平成27～34年の間で1250人の人口減少（10.1%）が見込まれる結果となっています。特に年少人口は21.9%、生産人口は14.9%と減少率が高く、逆に老年人口はほぼ横ばい、75歳以上人口は増加することが見込まれます。



右のグラフは一般世帯数の推計を表したものです。一般世帯数は平成17年国勢調査時まで増加を続けていましたが、その後22年調査時から減少に転じました。平成22年からの10年間で一般世帯が500以上減少すると予測されており、平成32年以降は団塊の世代の減少とともに、減少が加速する傾向にあります。

※一般世帯数とは？
社会施設の入所者、病院等の入院者などは除く世帯（住居と生計を共にしている人々の集まり）のことです。

◆ 今後起こりうること — 人口減少・高齢化の加速から

総人口の減少、生産人口の減少により…

- ・地域内の消費が減少する？
- ・税収が減少し町の予算規模が縮小？
- ・地域活動（町内会・育成会・消防団など）が維持できなくなる？
- ・児童生徒の減少は止まらない？
- ・公共施設の利用が減少する？

老年人口（65歳以上）の推移から…

- ・高齢者の人数は変わらないため病院の患者数に変化はない？
- ・75歳以上の人口、高齢者単独世帯の増加により社会福祉施設、介護サービスのニーズが増す？
- ・公共交通の重要性が増す？

一般世帯数の減少により

- ・市街地の空洞化が加速する？
- ・空き家（危険家屋）が増える？
- ・生産人口減少と相まって、新規住宅需要が減少する？



私たち 栗山青年会議所です。

23

1年間の青年会議所事業を振り返って

こんにちは、一般社団法人栗山青年会議所理事長の飯尾隆亮です。



「笑顔あふれるまちづくり」
本年度は、
「未来の宝である子どもたちに、故郷の大切さ・自然の大切さを夕張川を通じて伝えるために、「サケの稚魚放流事業」や「遡上見学ツアー」を行いました。また、青少年育成事業では、栗山町の子どもたち以外に、由仁町・長沼町の子どもたちにも呼びかけ、たくさんの子どもたちに参加していただいた「サマーキャンプ」、栗山町を中心とした南空知の魅力を地域の皆さんに伝えた「くりやまマルシェ」では、栗山の野菜でスイーツを作ろうと企画し、町内の小中学生が考案したオリジナルスイーツを、マルシェ当日限定販売させていただきました。普段の生活では体験出来ない機会を経験し、故郷の魅力の出会い、川の魅力に出会



子どもたちの笑顔があふれたJTCキャンプ



今年、初めての実施「サケ遡上見学ツアー」

もたちにも呼びかけ、たくさんの子どもたちに参加していただいた「サマーキャンプ」、栗山町を中心とした南空知の魅力を地域の皆さんに伝えた「くりやまマルシェ」では、栗山の野菜でスイーツを作ろうと企画し、町内の小中学生が考案したオリジナルスイーツを、マルシェ当日限定販売させていただきました。普段の生活では体験出来ない機会を経験し、故郷の魅力の出会い、川の魅力に出会



3,500人の来場者で賑わった「くりやまマルシェ」

い、多くの人との出会い、心と心のふれあいの大切さを学んでもらいました。

多くの人たちの「笑顔」、子供たちの「笑顔」と出会い、たくさんさんの「笑顔」であふれるまちづくり・輝けるまちづくりの一助となるような青年会議所運動を考え進めてまいりました。

本年開催した青年会議所事業にご参加いただいたみなさま、ご協力いただきましたみなさま、本当にありがとうございました。

今後とも、青年会議所運動に、ご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。